2019年8月20日　月刊第253号

非核・いしかわ

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の調印は70か国、批准は25か国（8月15日現在）

1面　原水爆禁止2019年世界大会in長崎 核兵器廃絶への大きなうねり　中村昭一
3面　被爆者の願いを引き継ぐ　出村朱音
4面　原水爆禁止2019年世界大会・国際会議 核兵器廃絶への共同と連帯　坂東弘美
5面　<独標>八年　高久晴美
6面　ハルビン731部隊跡地視察ツアー 加害の遺跡を訪ねて　池田治夫
7面　反核・平和おりづる市民のつどい 受け継がれる平和のバトン　小野栄子
7面　アーサー・ビナード講演会 開催案内
8面　シリーズ 石川の地域点描　中西　優
絵手紙コーナー　家 正子
非核・平和の掲示板

原水爆禁止 二〇一九年世界大会in長崎

核兵器廃絶への大きなうねり

中村 昭一

かつて原水爆禁止世界大会への参加は私にとって長年の夢でした。二〇一六年の広島でその願いが叶い、今回の長崎は世界大会としては二度目でした。朝鮮半島の非核化やイラン核合意からの米国の離脱など、注目すべきものがあるにせよ、相変わらず世界大会の規模が大きいのは、核兵器禁止条約をめぐる大きなうねりが根底にあるからだと思います。核兵器廃絶という人類課題に真摯に取り組むこの運動の有り様は、たしかに人類史の画期といえる日の到来を期待する市民社会の熱気の反映です。

◇　◇

私は、初日の八月七日は長崎市民会館での「開会総会」、八日は分科会三「非核・平和の自治体づくり」に参加しました。そして九日はいろいろ考え、先ずは長崎原爆資料館に立ち寄り、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参加しました。二五年ぶりの資料館はすっかりリニューアルされているのに驚きました。一〇時四〇分頃に式典会場に到着したのですが、既に満員で入れませんでした。式典の様子は近くのモニターテントにて視聴しました。一時〇二分の黙祷に参加し、田上富久長崎市長の「平和宣言」、被爆者の「平和への誓い」、安倍首相らの挨拶を聴きました。

◇　◇

開会総会・平和行進全国通し行進者の皆さん

花鳥風月

「先の大戦が何故起こり、何故防ぐことが出来なかったのか？」これがここ数年来の私の問題意識である。この論考をまとめたいが手つかずにいる。そして目下、気になるのは〝未来社会論〟である。商品経済が全面的で支配的である資本主義が、人類の到達した最善かつ最後のシステムなのか。もし違うのならどういう社会が展望できるのか。いま科学的社会主義の文献のみならず、いろいろ比較検討している。とても楽しい▼今回参院選の真の焦点は改憲勢力三分の二。結果は周知だが、政党の存在は本当に売買商品のように軽くなった。衝撃的な展開があったり消費期限付きが多いが、それもまた民意だ▼そこで問われるのは真の〝民主主義〟。正しい批判力。しかしそもそも民意を反映しない選挙制度下では、これもまた不可知論とならざるを得ない。これでは民衆の眼力も鍛えられぬ。いやそうさせぬようになっている▼人類史において戦争や紛争は絶えることはなかった。しかし現代の人類は過去から学び、知恵をはたらかせられる筈だ。既に地球環境を正確かつ即時に破壊する能力を持つ人類。武力による解決はもはや不可能。そんな人類の行く末を見届ける意志ある限り、手元の一票は楽しく行使できるというものだ。否ぜひ、そうしようではないか。（中）

資料館と式典

私の記憶にある以前の長崎原爆資料館はビルのような建物の中にありましたが、新しいものはより専門的な内容で、長崎だけではなく広く世界の被爆資料を扱っているようです。

平和祈念式典では、長崎市長や被爆者代表がハッキリと日本政府に核兵器禁止条約への参加を求めました。しかし安倍首相は「核兵器保有国と非保有国の橋渡し役をする」と他人事のように言うだけで、核兵器禁止条約には一切無視を貫きました。「核抑止論」「核の傘」にいつまでもしがみつくこの方が、相も変わらず唯一の被爆国の首相なのです。

分科会「非核平和の自治体づくり」

私が参加した分科会は、住民の中にある反核平和の願いを結集し、非核平和行政について考え、地方自治の観点から、実際の交渉の経験に学ぶ分科会です。

ここでは最後の方で発言しました。その内容はこの間の「非核の政府を求める石川の会」の活動や平和行進に関する取り組みの紹介です。県内の「平和都市宣言」「平和首長会議」への進捗および参加状況、「平和事業アンケート」結果の公表、首長メッセージや募金の依頼などの取り組みは、成果を伴い、全国的な広がりを感じます。同様な内容の発言も多々ありました。

この分科会では、冒頭に稲嶺進前名護市長の特別発言がありました。稲嶺さんは前日の開会総会でも同様の発言をされましたが、分科会では時間に制約されない分、より感動的なお話しでした。また同日夕方の日本平和委員会の参加者交流会でも挨拶され、そのご縁で稲嶺さんを囲んで有志夕食会が突然開かれることになり、私も内藤晴一郎石川原水協事務局長さんと一緒に参加することになりました。その席での稲嶺さんとのツーショットは私の宝物となりました。

稲嶺進前名護市長㊧と筆者

国際会議宣言に心うたれて

今回の世界大会の「国際会議宣言」はとても読みごたえのあるもので、心うたれました。以下、要約しながら私なりに読み解いてみます。

「核兵器のない世界」を求める声は今日、国際政治でも市民の間でも圧倒的多数です。そのなかで孤立する核保有国は、相互に矛盾や対立をはらみながらも何故か、核戦力の維持・強化のためにのみ、おかしなことに説明抜きに結束しています。核兵器固執勢力と核兵器廃絶をめざす勢力の対立こそ、今日の核軍縮をめぐる世界の構図、と言わねばなりません。

核保有国と核依存国は「核兵器は自国の安全に必要だ」と主張します。しかし「核抑止」政策は、核兵器の使用を前提にしたものです。しかし、いかなる理由であれ、核兵器による破滅的帰結をもたらすことは、人道に照らして絶対に許されません。「核のない世界」こそ、全ての国に核の脅威のない安全を保障する唯一の道なのです。

とりわけ日本に住む私たちは、被爆国に相応しい役割を政府に求める運動に連帯していくものです。四〇〇を超える自治体が意見書を採択し、政府に条約への署名、批准を求める声が大きく広がってきています。核兵器の非人道性を体験した日本は、自ら米国の「核の傘」から離脱し、核兵器禁止条約を支持し、参加すべきです。

また、日本政府に対して、沖縄県民が繰り返し拒否を表明している名護市辺野古への米軍新基地建設を断念し、普天間基地を即時返還すべきだと求めます。深刻化する日韓関係の改善のためにも、政経分離の原則にもとづき、侵略と植民地支配の歴史の直視と反省に立った理性的な外交が求められます。軍備拡大や日米軍事同盟の強化ではなく、第九条など日本国憲法の平和原則をいかした外交こそが、日本と北東アジアの平和を実現する道なのです。

開会総会での北陸の代表団

最も重要なことは

核兵器禁止条約は、核兵器を毒ガスや地雷と同様に、核兵器を全面的に違法化する規範をうちたて、その廃絶への重要な一歩を踏み出したものです。それは核保有国に対する大きな政治的、道義的圧力となっています。核兵器には正義も道理もありません。核保有国の抵抗や逆流は守勢のあらわれ

に他なりません。条約には既に七〇ヵ国が署名し、批准は二五ヵ国に達しています。発効は時間の問題となっています。この条約が発効すればさらに大きな力を発揮することでしょう。

最も重要なことは、ヒロシマ、ナガサキの被爆の実相をはじめ、核兵器の非人道性を訴える活動の強化と言えるでしょう。「核抑止論」を打ち破る最大の力は、核兵器使用の破滅的結末、非人道性の告発、道理と正義の欠落にあると言えるでしょう。全ての国、とりわけ核保有国とその依存国で、禁止条約の署名と批准を求める多数派をつくりあげることです。

そして二〇二〇年は国連創設七五年です。そもそも、国連決議第一号は「原子兵器の廃絶」でした。これが戦後の国際政治の原点であったことを決して忘れてはならないと思います。

開会総会4000人（主催者発表）の熱気

二〇一七年に核兵器禁止条約が国連で採択される直前の光景は、実に象徴的でした。ヤマ場の国際会議場内に核保有国が入れないのです。核保有国は会場入口で各国代表に「核兵器禁止条約は世界平和に有害だ」と宣伝する他ないのです。核を保有する超大国が国際会議の主役を外れたことが如実に示され、誰が人類史の推進役か、誰が反動的役割を果たしているか、世界の人々に白眉のものとなったのです。

最後に

平和行進をはじめ全国各地から反核平和の思いをつないで結集した世界大会は感無量でした。既に被爆者の平均年齢は八二歳をこえています。「生きているうちに核兵器廃絶を」という被爆者の願いに応えるためにも、私たちは急がねばなりません。

人間の尊厳を否定する核兵器とそれに抗う人々のたたかいは、世代と国境をこえて共感を広げています。人間らしく生きようとする全ての人々とともに、「核兵器のない平和で公正な世界」の一日も早い実現のために、力を尽くそうではありませんか。

（「非核・いしかわ」編集長）

原水爆禁止世界大会
被爆者の願いを引き継ぐ

出村朱音

長崎にて八月七日から九日にかけて行われた原水爆禁止世界大会に初めて参加しました。三日間を通して多くのことを学ぶことができました。

一日目の開会総会、三日目の閉会総会では、各団体や各国代表のあいさつや発言を聞き、参加している方々の核兵器廃絶に向けた強い思いを感じました。特に被爆者の方の証言からは、原爆は投下直後に悲惨な状況を生み出すだけでなく、その後の人生や七四年が経った現在でも大きな苦痛をもたらしているということがわかりました。中でも「戦争、原爆さえなければすばらしい人生が開けていた」という言葉が印象に残り、一瞬にして人々の生活や人生を奪ってしまう核兵器はこの世界にあってはならないものということを改めて感じました。

二日目は分科会①「憲法九条守り、非核平和の日本を」に参加しました。原爆投下に対して当時の政府は抗議文を出しており、全人類と文明の名において核兵器の放棄を要求したそうです。しかし、そのような要求をしたのは戦時下であったためにしており、現在は核兵器に依存し、核兵器禁止条約にも反対し、九条の改憲をも進めようとしています。唯一の被爆国として、日本は世界の平和を追求していくべきなのではないかと考えます。そのため憲法九条を守り、日本を戦争する国に変えてしまわないよう、行動を起こしていくことが大切であるということを分科会を通して学びました。

今回実際に長崎という地を訪れ、学んだことで、核兵器は必要のないもの、核兵器廃絶が実現してほしいという思いが強くなりました。被爆者の平均年齢も八二歳となり、体験を伝えていくということが難しくなっているようです。そのため被爆者の方々から学んだこと、核兵器廃絶に向けた思いを忘れずに私たちが引き継いでいかなければならないと考えます。今後も学びを深め、平和に向けた活動に積極的に参加していきたいと思います。

（城北病院医療ソーシャルワーカー）

【トピックス】

八月六日、新たにボリビアが核兵器禁止条約の批准書を国連事務総長に寄託し、批准国は二五カ国になりました。

原水爆禁止世界大会・国際会議in広島

核兵器廃絶への共同と連帯

はだしのゲンをひろめる会　坂東弘美

国際会議・開会総会で発言する坂東弘美さん

八月三日、朝七時二四分名古屋発ひかりで広島市文化交流会館に向かう。タクシーの運転手さんが「昔は岩国基地のアメリカ兵が来るぐらいだったのに、オバマさんが来てから、広島の外人観光客はドッと増えましたよ」と言っていたが、街には外国人観光客が多い。

・・・・・・・・・・・・・

一九四五年来、アメリカは、広島・長崎への原爆被害が世界に伝わることを恐れ、厳しい報道管制をおこなった。一九五四年のビキニ水爆被災事件をきっかけに、広島・長崎の被害、放射能による惨禍が知られたことを背景に、一九五五年、広島で第一回原水爆禁止世界大会が、翌五六年には、長崎で第二回原水爆禁止世界大会が開かれた。以来連綿として世界大会が開催されてきた。今年のテーマは「核兵器廃絶へ共同と連帯の推進―反戦平和、原発、環境、人権、暮らしなど運動とともに」。

今年の国際会議には二一ヶ国、八六名、三七団体の海外からの参加。今年の全体の参加者は二〇〇名。核保有国も参加している。海外代表の紹介。主催者と被爆者の挨拶。地球上には一四五〇〇発の核兵器。国連で核兵器禁止条約を採択させるために奮闘しているオーストリア、キューバ、メキシコ、ベネズエラは政府代表が参加している。日本原水爆被害者団体協議会事務局次長の被爆者挨拶には会場が引き締まった。

終末時計は零時二分前

オーストリア欧州統合外務省公使、核兵器・IAEA・CTBTO・NPT課長ガルフオーファー氏挨拶。「わが国の憲法は核兵器を原子力とともに明確に禁止している。」の言葉を羨ましく思った。米国とロシアの非政府組織・運動・キャンペーンの共同声明は、ユーモラスに始まったが、「我々はそれぞれの政府が近年行なってきた危険で容認できない核脅迫を非難する。ロシアの場合、クリミアの事例であり、アメリカの場合はイランと北朝鮮である。ブレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスツの終末時計は零時二分前に設定された。」の発言に緊張する。質疑応答もとても活発でフレンドリーな雰囲気で進んだ。

頼もしい若者の発言

若い研究者や平和行進を続けている若者が、発言するのは頼もしい。国際青年リレー行進者のゲレーロ（平和を教え、平和を創ろう、フィリピン）氏は写真家であり、アーティスト。ヨルダンの中近東大学プロジェクト「夾竹桃イニシアチブ」学術アドバイザー・国際資格コーディネーターのラージャさんのスピーチが心に残る。次世代を信じ、学生たちと色々な対話をしている。イスラエルが隣で、イランの核兵器。いつも恐怖心の中で暮らしている。米人議長が「私も米人として恐怖心を感じている」と発言。ベトナムでは今も枯葉剤で苦しんでいる。銀行の軍需産業への投資は代替案が必要。ヨーロッパには倫理的な信念を持っている銀行もある。憲法九条の大切さ、沖縄の県議会議員からの発言には何度も拍手が起きた。国際会議は様々な世界の問題があぶりだされる場だ。

議長席に発言用紙に記入して申請すれば、誰でも発言できる。私は二〇〇人全員が参加している時間帯にうまく入れてもらえ、クルリと回ってTシャツのゲンの漫画を見てもらい、更に募金箱も高く掲げて、「はだしのゲン」アラブ語版出版支援の呼びかけをする。議長が「はだしのゲンは強力なツールである」と、後を繋いでくれた。

分科会でも発言

午後は分科会。私は「核兵器廃絶へ共同と連帯の推進――反戦平和、原発、人権、暮らしなど運動とともに」に参加。ここでも一九九〇年に救援のためにチェルノブイリを訪問したことがきっかけで、浅妻南海江さんと知り合い、彼女が「はだしのゲン」をロシア語に翻訳したこと、服部君事件でクリントン大統領に直接日米一七〇万人の署名を手渡した話、日中戦争など、暴力で解決する根っこは同じであるという具体的な話をした。

・・・・・・・・・・・

八月五日の閉会総会。「僕もゲンって言うんです」と、三〇代の若者が現れる！両親がゲンが好きで、この名前にしたと聞かされて育ったと言う。甲府の青年。

広島の地元民間放送のＴＶは、広島・長崎の悲劇が繰り返される危険が、今以上に増大したことはない。来年はＮＰＴ発効から五〇年。核保有が五大国のみに認められている不平等性を厳しく問うた会議であったことを、参加者のインタビューを通して丁寧にレポートしていた。

二〇二〇年ＮＰＴ再検討会議

国連憲章の平和原則を遵守し対話と外交によって問題を解決することを強く要求する。核兵器の非人道性を体験した日本は、アメリカの核の傘から離脱し、禁止条約を支持し、参加すべきである。被爆者の平均年齢は八二歳を超えた。人間らしく生きようとするすべての人々とともに「核兵器のない平和で公正な世界」の実現のために力を尽くそう。

会議では来年の核不拡散条約（ＮＰＴ）再検討会議に「核兵器廃絶を求める世界の声を届けよう」と繰り返し訴えられ、署名が呼びかけられた。

・・・・・・・・・・・

六日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式典に一般席で参加した。毎年、首相の挨拶は矛盾の巣窟で虚しい。核兵器廃絶と毅然と言うべきは日本なのに。途中で雨が降り出し、遠くに右翼？の声が聞こえるけれど、雨のせいか気にならなかった。平和記念公園内を歩きまわって日本語、英文のアラビア語版支援チラシを配る。

西本多美子さんが被爆証言

午後からは世界大会。年々会の規模が小さくなっていて、今年の参加者は一三〇〇人と発表された。金沢の西本多美子さんが被爆者証言をする。いつも聞かせてもらっている四歳の時の体験だけど、何度聞いても涙が出そうになる。立派なスピーチだったが、年々被爆者は減っている。核兵器禁止条約の批准は急がねばならない。

世界大会のフィナーレ。名簿を見ていて驚いた。名古屋工業大学のエサテイエ先生が、「戦争を超えた世界　日本支部コーディネーター」として参加していた。名工大には、英語と中国語（繁体字）版を彼が入れてくれている。皆で「ウィシャルオーバーカム」を歌って終了した。

毎年８月６日、原爆ドーム対岸で「広島　愛の川」大合唱が行われています

中沢啓治作詞「広島　愛の川」

西本さんと彼女の親友の中島さんと合流。元安川で中澤ミサヨさんとも合流。主催者の作曲者である山本加津彦氏に挨拶して、中沢啓治作詞の「広島　愛の川」合唱を聴く。原爆ドーム対岸の親水テラス（とうろう流し会場）で開かれるようになって、今年で五回目だ。毎年こんな行事が行なわれていること、天国の中沢啓治さんに伝えたら、どんなにか喜ばれることだろう。ゲンよ、愛の川から世界へ羽ばたけ！

（「はだしのゲン」中国語版翻訳者）

◎今年の国際会議ではアメリカ、イスラエル、レバノンの海外代表から『はだしのゲン』英語版、九セットの寄贈申込みがありました。

詩人会議かなざわ「独標」より

八年

高久晴美

助けてくださった人達に
感謝をこめて
心より御礼申し上げます

八年という月日は
大地震・津波への思いを
少しづつ変化させながら
胸の中で澱となる

なにかの瞬間かきまぜられ
心には嵐がまきおこる
そんな時は
じっとしている、ただ、じっと・・
忘れるなんて事はないの
でも、薄れていく事には悲しくなるの

あまりにも
失われたものが多すぎるから

だから、せめて感謝するの
今日という日に、隣人に、
自分が生きているって事に
そして、明日にも

決して
戻らない時間だから・・・

ハルビン七三一部隊跡地視察ツアー

加害の遺跡を訪ねて

池田治夫

「十五年戦争と日本の医学医療研究会北陸支部」と「キリスト者医科連盟有志」が企画した『ハルビン七三一部隊跡視察ツアー』に参加して来ました。現在のアジア諸国と日本の外交・経済的諸問題を考えた時、戦争による他国への加害責任をどう捉えたら良いのだろうか、現地に残された戦争の遺跡を見、中国研究者の意見を聞き、できれば中国国民の感情に触れてみたいとの思いで参加してきました。

陳列館新館の正面入り口にて

八月二日朝、参加メンバー一六人が新潟空港に集合。実質二時間のフライトで直接ハルビン空港へ。貸し切りバスに乗り換えて、午後は郊外の「長嶺子基督教開拓村」の跡地を訪問。翌三日は終日ハルビン市郊外平房にあった七三一部隊跡地に立てられた「侵華日軍七三一部隊罪証陳列館」はじめ周辺遺跡の見学と研究者との交流に当てられました。

「陳列館」は、歴史保護区として二五万平方メートルに及ぶ広大な遺跡群の中核施設として二〇一五年に新築オープンした黒塗りコンクリートの建物です。終戦時に爆破して証拠隠滅を図ったとされている本部や捕虜（マルタ）を収容していた「ロ号棟」土台部分を掘り起こし、その他周辺の遺構と一体となって悪魔の罪証を顕かにするものでした。

「防疫給水部」の名に隠れて極秘研究・実験・実戦を進めた細菌戦の大本営として位置づけられ、部隊を率いた石井四郎をはじめ研究者の紹介、細菌の培養から人体実験、生体解剖、兵器の開発、中国全土にわたる細菌戦の実戦、更に標本や医学レポートまで詳細に具体的に証拠を示し、罪状を暴露しています。

発掘した実物証拠、記録に残されたものは忠実に再現し、指導的な立場にあった軍人・研究者は履歴から戦後の動きまで追い、マルタとして殺された犠牲者もわかる限りで全員の実名と写真で墓碑を再現しています。これでもか、これでもかというほど事実の暴露にこだわった内容でした。

研究交流では、金成民記念館館長、楊彦君副官庁が同席して挨拶、陳列館の来歴の紹介がありました。北陸支部として昨年取り組んだ「留守名簿にもとづく石川県関係者四八名の訪問調査活動」を報告して懇談しました。金館長からは「留守名簿の公表は遅すぎるが、証言掘り起こしの調査活動は高く評価したい。他の地域の調査継続も含めて今後もいっしょに研究しましょう」とコメントされ、大きな宿題を課されたような気がしました。

四日の午前中はハルビン市街地に残された「安重根記念館」「東北烈士記念館」その他の戦争遺跡の見学が続きました。日曜日ということもあって、どこも親子連れや若い中国人の見学者が多く、我々日本人グループがどう見られているのだろうかと気にかかりました。

ツアーに参加しての感想ですが、現存する加害の事実そのものに圧倒され、これを掘り起こし目に見える形で残そうという研究者の努力に圧倒され、これを世代間で受け継ごうという教育的配慮の大きさにも圧倒されたというのが本音です。その様に、今の日本という国や日本人を見ているのだな、言葉を変えれば「明治維新一五〇年」と括る歴史観や「戦後政治の総決算」の政治スローガンを冷徹に捉えているのだなと感じました。

過去の教訓から学ぶことと謝罪は最低条件として、日本政府の姿勢を変えさせない限り、真の和解、相互理解はないだろう。そうすれば、国家による戦争の「被害者」として市民同士の連帯感を共有することもできるのではないかと考えました。

（十五年戦争と日本の医学医療研究会北陸支部・事務局）

研究者とツアー団との交流会

非核・平和のひろば

反核・平和おりづる市民のつどい
～2019 ピースデイ～

受け継がれる平和のバトン

小野 栄子

平和の子ら像前で「平和の子ら」を大合唱しました

七月二一日、金沢市・卯辰山玉兎が丘に建つ「平和の子ら像」前で、反核・平和おりづる市民のつどい～ピースデイ２０１９～が開催されました。二〇一七年は雨天で中止になり、二〇一八年は平和の子ら像建立二〇周年記念事業を石川県女性センターで行ったため、平和の子ら像前での開催は三年ぶりとなりました。

今回のメイン企画は、平和サークル「むぎわらぼうし」のメンバーによる原爆詩の朗読で、台本は石川の被爆者たちの体験等を紡いだ構成詩『ともに歩もう』。これは、一九八九年にむぎわらぼうしが中心になって制作した、石川版の「この子たちの夏」です。

朗読者募集の呼びかけは急だったにもかかわらず、大森和子さん、小原美由紀さん、沢口悦子さん、広瀬智恵美さん、広瀬豊さん、中内晃子さんが立候補。事前に開催した全員練習では、東しげのさん、西本多美子さん、川崎正美さんの熱い指導のもと、練習は夜九時まで続きました。

そして迎えたピースデイ当日。構成詩『ともに歩もう』が、平和の子ら像前の広場に静かに響き渡りました。被爆の実相に向き合い、伝えようとの思いがほとばしる朗読。むぎわらぼうしが積み重ねてきた、例会四〇〇回分の活動の重みを感じた瞬間でした。

この日は、ＣＤ「平和の子ら」のジャケットをデザインされた広瀬歩（金沢市出身）さんが、はるばる東京から参加。見慣れた卯辰山からの風景、その空に向かって〝平和の子ら〟が折り鶴を飛ばしているイメージは、デザインを引き受けたときにすぐに思いついたこと、一〇歳の頃にピースデイに参加し、そこで歌った「平和の子ら」を今も覚えていること、そして、「平和の思いを世界につなげていけたら」との抱負も語ってくださいました。

つどいの最後を飾った「でえげっさあ」による平和ミニコンサートでは、金沢紫金草合唱団のメンバー、ＣＤ「平和の子ら」制作メンバー、さらには犀川小学校の生徒さん三人も前に出てきて、参加者全員で「平和の子ら」を合唱。「♪子どもたちよ　受けとめてほしい　平和を願うこのバトンを」の歌声が、玉兎が丘に響き渡りました。

終了後、参加された被爆者の皆さんや子どもたちの笑顔を見ながら、〝平和のバトン〟は確かに受け継がれている！そう実感した今年のピースデイでした。

（核戦争を防止する石川医師の会事務局）

西本多美子さん（後列中央）を囲んで

国連核兵器廃絶デー記念企画

アーサー・ビナード講演会

この世はぜーんぶ紙芝居!!

日 時　9月23日（月・休日）13：30～
会 場　石川県教育会館3階ホール
チケット　1,000円（高校生以下 無料）
主 催　核戦争を防止する石川医師の会
＊詳しくは案内チラシを参照ください。

シリーズ石川の地域点描 36

フォトグラファー　中西 優

夕暮れのひまわり村＝河北潟ひまわり村

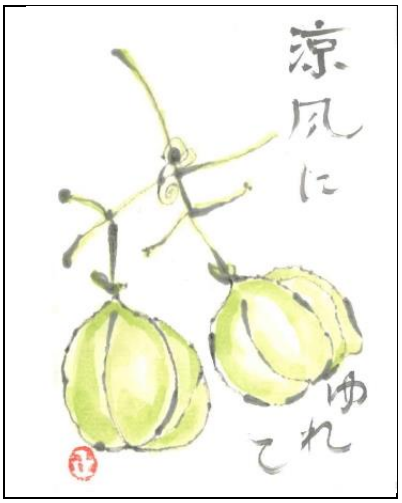
青空とひまわり畑＝小松市瀬領地区

夏の花・ひまわりと言えば石川県内では河北潟のひまわり村が有名ですが、近年では休耕田を利用したひまわり畑も増えているようです。小松市瀬領地区に今年登場したひまわり畑も休耕田を活用しているそうです。ひまわりの鮮やかな色が各地で見られるのは嬉しいのですが、それだけ休耕田が増えているということですので複雑な心境です。

今年の夏は暑さと同時に台風などの被害も出ているようです。体調管理とともに災害への備えもみなさま十分になさってください。

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　家 正子



非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	内　容	会場
8	24日(土)～25日(日)			日本母親大会in静岡	静岡県焼津市・静岡市
	25日	日	13・30	2019年夏の交流研究集会「今ここにある希望！」 講演　かつやま子ども村小学校長　片山晴喜さん	金沢市富樫3丁目・教育プラザ富樫　123研修室
	29日(木)～31日(土)			中央社会保障学校inいしかわ　講演と分科会	金沢市香林坊・石川県教育会館など
				8/29(木)13:30　学習講演・小森陽一さんと井上英夫さん	金沢市香林坊・石川県教育会館3階ホール
				8/30(金)9:30　テーマ別分科会・貧困問題シンポジウム	
				8/31(土)9:30　市民公開講座・斎藤貴男さん	
	30	金	18:30	原水爆禁止世界大会石川県代表団報告会	金沢市京町・石川勤労者医療協会3階ホール
	31	土	14:00	平和のバトンコンサート／西本多美子さん＆でいげっさあ	小松市白江町・小松第一コミュニティセンター
9	4	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・四高記念公園教育会館前入り口
	6	金	12:30	核兵器廃絶6・9署名行動	金沢市武蔵町・エムザ前
	7	土	13:30	治安維持法国家賠償要求同盟石川県本部総会	金沢市北安江町・勤労者プラザ4階
	8	日	10:30	9条の会北陸ブロック交流会　講演　小澤隆一さん	金沢市北安江・金沢勤労者プラザ101号室
	14	土	14:30	石川革新懇総会／記念講演　富田宏治さん	金沢市北安江・金沢勤労者プラザ
	15	日	13:00	石川のうたごえ交流会	白山市・松任コンサートホール(松任図書館隣り)
	18	水	12:50	怒りの昼デモ	金沢市香林坊・四高記念公園教育会館前入り口
	23	月・休	10:30	国連・核廃絶デー／反核医師の会　ピースな楽校	金沢市香林坊・石川県教育会館2階和室
			13:30	国連・核廃絶デー／アーサー・ビナード講演会	金沢市香林坊・石川県教育会館3階ホール
	25日(水)～26日(木)			日本高齢者大会in福島	福島県郡山市磐梯熱海温泉
	27	金	18:30	石川県平和委員会時局講演会／講師　川田忠明さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
10	3	木	18:30	原発なくす石川県連絡会　総会	場所未定
	5	土	14:00	金沢紫金草合唱団19周年記念コンサート　合唱と語り 語り・志田弘子さん「染にこめたいのちの想い」	七尾市小丸山台・石川県七尾美術館アートホール

＊祝日は休日とします　＊毎週金曜日 18:30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊毎月15日石川県沖縄連帯デー 12:00

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中　年会費 2,000円　ゆうちょ銀行口座　00760－0－15689